

# 2月 たかた

コミュニティ・スクール高田  
校長 吉丸 みさ子  
平成30年 2月14日

## 高田小ならではの特色ある教育活動、今後も継続を！

ここ数年にない寒波の到来とそれに伴う雪に、子どもたちの登下校と職員の出勤の安全を心配する日が続きました。

皆様におかれましては、何事もなく過ごされましたでしょうか？



さて、平昌冬季オリンピックが始まり、ベテラン選手の活躍もさることながら、若い選手の活躍が特に目にとまります。16・17歳の日本代表選手。6年生の子どもたちの4年後・5年後です。自分の目標を確かに持ち、自分を鍛え、目標達成にむけ挑戦していく姿に、また、インタビューに答える内容の奥深さ、失敗を失敗として終わらせることなく、次へのステップアップの糧として捉えることのできる精神力に頭が下がります。

世界への挑戦を望むわけではありません。しかし、高田小学校の『学校・家庭・地域が協働し、「鍛える、そして、誉める」ことを通して、「進んで考え表現する子ども」を育てる。』という重点目標と重ねて、その時その時の自分の具体的な目標を持つことができる力を、目標に向かって今何を成すべきかを考え主体的に実行できる力を、そして、結果からさらに次への目標を立てることができる力を培っていききたいものです。

上記のような力をより効果的につけるために、高田小学校では多くの体験的な学習を教育内容に取り入れています。

今年も6年生は「3日間の保育体験」に取り組みました。はじめは何をどうして良いのか分からなかった子どもたちも、2日目、3日目になると自分から動く姿も見られるようになりました。この3日間の体験は他の学校ではできないことです。来年度から新指導要領への移行期間に入りますが、是非とも、この高田ならではの体験活動は残しておきたいものです。

2月9日は学習参観でした。今年度最後の参観ということで、生活科や国語・音楽の学習のまとめを発表する会や、六年生に送る一文字へ込めた願いや訳を発表する会、俳句の鑑賞会、パワーポイントを使って2年間を振り返る会等、今年度の学習のまとめとなる内容でした。



3年生は、総合的な学習の時間『昔の暮らしを体験しよう』で、熟年マナビ塾の塾生の皆さんから、昔の暮らしについてお話を聞いたり、鉛筆削りの実習を行ったりしました。



毎週火曜日にお会いする熟年マナビ塾の皆さんですので、子どもたちも人見知りせず質問をし、熱心にお話を聞きました。塾生の皆さんも、学習後に「子どもたちとお話しできて、楽しかったですよ。」と笑顔で感想をおっしゃっていました。こういった活動も、地域と保護者と学校とが近い距離にあるからだだと思います。

これからも、コミュニティ・スクールの強みを生かしながら、特色ある教育活動を継続していきたいと思っています。

※ 福岡県教育センターホームページに高田小学校の教育指導計画書が紹介されています。キーワード：学校運営協議会・コミュニティ・スクール  
平成29年度 小・中学校「特色ある教育指導計画書」について

特色ある教育課程編成を支援するために、小・中学校の教育指導計画書を収集しています。本年度は下記の学校より特色のある指導計画書を提供していただきました。教育センター資料室で公開していますので、各学校の教育指導計画書作成にお役立てください。

### ホットタイム

先日、私が参加している学習会で、時間をいただいております。話せる機会がありました。

自分の管理職としての経験を振り返るために、これまで書いてきた通信を読み返しました。その時、その時の私の想いがあふれてはいました。勢いで書いているので、どれだけ読み手に伝わったのかはなはだ疑問でした…。

『たかた』では、あまり書いてきませんでしたが、私がこれまでに記載した項目で一番多かったのは『言葉使い』についてでした。

(抜粋)

『言葉(ことだま)』とは、言葉に魂が宿り、その言葉通りになるという意味です。自分が発する言葉を毎日聞き続けているのは自分自身。つまりそれらの言葉がいつの間にか心の癖となり習慣化し、その癖を持つ自分を無意識に表現するのであります。』

ということとは、いつもちくちく言葉を使っている子ども達は、いつの間にか心にその癖を持つということになります。礼儀ということからだけではなく、言葉を発することの重みを感じながら、言葉のリフレーミングで優しい自分自身を創ってほしいと願っています。

これを読み返しながらか、子どもたちを取りまく学校の言語環境、私を含め職員の「言葉」はどうだろうと思えました。私たちが発する言葉は、ストレートに子どもたちに届きます。その言葉を発するときの私たちの気持ちも、ストレートに届くことを、再度心に刻んで言葉を発したいと思えます。

